

よくわかる!

こどもの 権利条約

けん り じょう やく
児童の権利に関する条約

に てい ばん
〈二訂版〉



企画：き かく ほう む しょうじん けん よう ぐ きやく ぜん こく じん けん よう ぐ い いんれんごうかい
法務省人権擁護局／全国人権擁護委員連合会

制作：せい さく こう えき ざい だん ほう じん けん きょういく けいはつ すいしん
公益財団法人人権教育啓発推進センター

こどもの権利条約って何？

人は生まれながらに「人としての尊厳や価値が守られ、幸せに生きるために必要な権利」(人権)を持っています。これは、何かと引換えに与えられるものではなく、また、何かをしないと取り上げられるものでもありません。

でも、この権利が守られない多くの子どもたちがいるので、世界の国々の責任として、こどもの権利をしっかりと守っていくために、1989年につくられたのが「こどもの権利条約」です。日本も1994年にこの条約に入っています。

この条約では、18歳未満の児童(子ども)を「権利の主体」と位置づけ、大人と同じひとり人間としての権利を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定められています。日本では、「こども基本法」の基本理念にもなっています。



こどもの条約だから、大人には関係ないの？

条約には、こどもの権利だけでなく、こどもを育てる責任はまず両親(保護者)にあり、国がそれを支援するということも書かれているんだよ。だから、大人もこの条約をよく理解して、こどもの権利をきちんと守れているか考える必要があるんだ。





こどもの^{けん り じょうやく き}権利条約で決められている
いろいろな^{けん り}権利は、下の4つの
基本的な^{き ほん てき}考え方が^{かんが}共通しており、
「4つの^{けん そく}原則」と呼ばれています。
あなたが^{しあわ い}幸せに生きていくために
大切な^{たい せつ}ことばかりです。



さ べつ 差別されない

じん しゅ せい べつ つか こと ば しん しゅうきょう
人種や性別、使う言葉、信じている宗教、
おや ひと しょう う む
親がどのような人か、障がいの有無…
どのような^{ちが}違いがあっても差別されません。
もし、あなたが^{さ べつ}差別されて^{くる}苦しんでいるなら
たす ちと
助けを求めてください。

いち ばん あなたが一番

おと な もっと
大人は、「あなたにとって最もよいことは
なに かんが
何か」をいつも考えなければなりません。
あなたの^{じん せい}人生は、大人の^{おと な}都合だけで^{つ ごう}決め
られてよいものではありません。

まも いのち 守られる命

すべ い けん り
全てのこどもには生きる権利があります。
あなたは、^{せい ちよう}すこやかな成長のために、
じゅうぶん きょういく し えん う
十分な教育や支援を受けることができます。

い けん たい せつ 意見は大切

い けん ねん れい せい ちよう
あなたの意見は、あなたの年齢や成長に
おう さん ちよう
応じて、しっかりと尊重されます。
い けん つた
意見があれば、伝えてみましょう。

第1条

こどもの定義

18歳になっていない人をこどもとします。



第2条

差別の禁止

すべてのこどもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。こどもは、国のちがいや、性のちがい、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障がいがあるかないか、お金持ちであるかないか、親がどういう人であるか、などによって差別されません。



第3条

こどもにもっともよいことを

こどもに関係のあることが決められ、行われるときには、こどもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。



だい じょう
第4条

くに ぎ む
国の義務

くに じょうやく か
国は、この条約に書かれた

けん り まも ひつよう
権利を守るために、必要な

ほう りつ つく せい さく じつ
法律を作ったり政策を実

こう
行したりし

なければ

なりません。



だい じょう
第5条

おや し どう
親の指導を
そんちよう
尊重

おや ほ ご しゃ
親（保護者）は、こどもの

はっ たつ おう てき せつ し どう
発達に応じて、適切な指導

をします。くに

おや し どう そんちよう
親の指導を尊重

します。



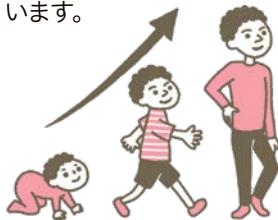
だい じょう
第6条

い けん り
生きる権利・
そだ けん り
育つ権利

すべてのこどもは、生きる

けん り そだ けん り
権利・育つ権利をもって

います。



だい じょう
第7条

な まえ こく せき
名前・国籍を
もつ権利

こどもは、う
生まれたらすぐに

どう あく しゅっしょうとどけ
登録（出生届など）されなけ

ればなりません。こどもは、

な まえ こく せき
名前や国籍をもち、できる

おや し おや そだ
かぎり親を知り、親に育てて

もらうけん り
権利をもっています。



だい じょう
第8条

な まえ こく せき か ぞく かん けい まも けん り
名前・国籍・家族関係が守られる権利

くに な まえ こく せき か ぞく かん けい まも けん り
国は、こどもが、名前や国籍、家族の関係など、自分が自分で
あることを示すものをむやみにうばわれる
ことのないように守らなくてはなりません。



だい じょう
第9条

おや ひ はな けん り
親と引き離されない権利

こどもには、おや ひ はな けん り
親と引き離されない権利
があります。こどもにもっともよいとい
う理由から引き離されることも認めら
れますが、その場合、おや あ れん
親と会ったり連
絡したりすることができます。



だい じょう
第10条

べつ べつ くに おや あ けん り
別々の国にいる親と会える権利

くに べつ べつ くに おや あ いっしょ
国は、別々の国にいる親とこどもが会ったり、一緒にくらしたり
するために、くに で い はい りょ
国を出入りできるよう配慮し
ます。親がちがう国に住んでいても、こど
もは親と連絡をとることができます。



だい じょう
第11条

くに つ けん り
よその国に連れさられない権利

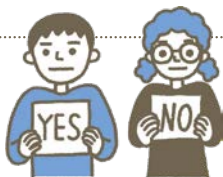
くに くに そと つ じ ぶん
国は、こどもが国の外へ連れされたり、自分
の国にもどれなくなったりしないようにします。



だい じょう
第12条

い けん あらわ けん り
意見を表す権利

こどもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、こどもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。



だい じょう
第13条

ひょうげん じ ゆう
表現の自由

こどもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。



だい じょう
第14条

し そう りょうしん
思想・良心・
しゅうきょう じ ゆう
宗教の自由

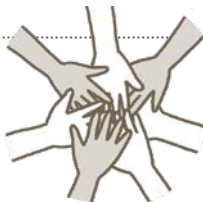
こどもは、思想・良心・宗教の自由についての権利をもっています。



第15条

結社・集会の自由

こどもは、ほかの人びとと一緒に団体をつくったり、集会を行ったりする権利をもっています。



第16条

プライバシー・名誉の保護

こどもは、自分や家族、住んでいるところ、電話やメールなどのプライバシーが守られます。また、他人から誇りを傷つけられない権利をもっています。



第17条

適切な情報の入手

こどもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れる権利をもっています。国は、本、新聞、テレビ、インターネットなどで、こどものためになる情報が多く提供されるようにすすめ、こどもによくない情報からこどもを守らなければなりません。



だい じょう
第18条

よう いく おや せき にん
こどもの養育はまず親に責任

こどもを育てる責任は、まずその両親（保護者）にあります。国はその手助けをします。



だい じょう
第19条

ぼう りょく ほ ご
あらゆる暴力からの保護

どんなかたちであれ、こどもが暴力をふるわれたり、不当な扱いなどを受けたりすることがないように、国はこどもを守らなければなりません。



だい じょう
第20条

か てい うば ほ ご
家庭を奪われたこどもの保護

家庭を奪われたこどもや、その家庭環境にとどまることがこどもにとってよくないと判断され、家庭にいたることができなくなったこどもは、かわりの保護者や家庭を用意してもらうなど、国から守ってもらうことができます。



第21条

養子縁組

こどもを養子にする場合には、そのこどもにとって、もっともよいことを考え、そのこどもや新しい親(保護者)のことなどをしっかり調べたうえで、国や公の機関だけが養子縁組を認めることができます。



第22条

難民のこども

自分の国の政府からはく害をのがれ、難民となったこどもは、のがれた先の国で守られ、援助を受けることができます。



第23条

障がいのあるこども

心やからだに障がいがあるこどもは、尊厳が守られ、自立し、社会に参加しながら生活できるよう、教育や訓練、保健サービスなどを受ける権利をもっています。



だい じょう
第24条

けんこう い りょう
健康・医療
への権利

こどもは、健康でいら
れ、必要な医療や保健
サービスを受ける権利
をもって



います。

だい じょう
第25条

し せつ はい
施設に入っ
て
いるこども

施設に入っている

こどもは、その扱い



がそのこどもにとってよいもの

であるかどうかを定期的に調

べてもらう権利をもっています。

だい じょう
第26条

しゃ かい ほ しょう う けん り
社会保障を受ける権利

こどもは、生活していくのにじゅうぶんなお金がないと

きには、国からお金の支給などを受ける権利をもっています。



だい じょう
第27条

せい かつ すい じゅん かく ほ
生活水準の確保

こどもは、心やからだがすこやかに成

長できるような生活を送る権利をもっています。親（保護者）

はそのための第一の責任者ですが、必要なときは、食べるも

のや着るもの、住むところなどについて、国が手助けします。



第28条

教育を受ける権利

こどもは教育を受ける権利をもっています。国は、すべてのこどもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、こどもの尊厳が守られるという考え方からはずれるものであってはなりません。



第29条

教育の目的

教育は、こどもが自分のもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものです。



第30条

少数民族・先住民のこども

少数民族のこどもや、もともとその土地に住んでいる人びとのこどもは、その民族の文化や宗教、ことばをもつ権利をもっています。



だい じょう
第31条

やす あそ けん り
休み、遊ぶ権利

こどもは、^{やす}休んだり、^{あそ}遊んだり、^{ぶん か げいじゆつ}文化芸術
^{かつ どう}活動に参加したりする^{けん り}権利をもっています。



だい じょう
第32条

けい ざい てき さく しゅ ゆう がい ろう どう ほ ご
経済的搾取・有害な労働からの保護

こどもは、^{はたら}むりやり働かされたり、^{きようい}そのために教育を
^う受けられなくなったり、^{こころ}心やからだによくない^{し ごと}仕事
をさせられたりしないように^{まも}守られる^{けん り}権利をもっています。



だい じょう
第33条

ま やく かく ざい
麻薬・覚せい剤
^{ほ ご}などからの保護

くに 国は、こどもが^{ま やく}麻薬や^{かく}覚せい
^{ざい}剤などを^う売ったり^か買ったり
^{つか}使ったりすることに^{まも}まき
こまれないように^{まも}守らな
ければなり
ません。



だい じょう
第34条

せい てき さく しゅ
性的搾取
^{ほ ご}からの保護

くに 国は、こどもが^{じ どう}児童ポルノ
^{じ どう ばいしゅん}や児童買春などに^{り よう}利用さ
^{せい てき}れたり、^{ぎやくたい}性的な虐待を受け
たりすることのないように
^{まも}守らなければ
なりません。



だい じょう
第35条

ゆう かい ばい ばい ほ ごと
誘拐・売買からの保護

くに 国は、こどもが誘拐されたり、売り
か 買いされたりすることのないように
まも 守らなければなりません。



だい じょう
第36条

さく しゅ ほ ごと
あらゆる搾取からの保護

くに 国は、どんなかたちでも、こどもの
しあわ 幸せをうばって利益を得るようなこ
とからこどもを守らなければなりま
せん。



だい じょう
第37条

ごう もん し けい きん し
拷問・死刑の禁止

どんなこどもにたいしても、拷問や人間的で
ないなどのあつかいをしてはなりません。また、
こどもを死刑にしたり、死ぬまで刑務所に入れたりすること
は許されません。もし、罪を犯してたいほされても、尊厳が守
られ年れいにあつたあつかいを受ける権利をもっています。



だい じょう
第38条

せん そう
戦争からの
ほ ご
保護

くに さい
国は、15歳にならないこどもを
ぐん たい さん か
軍隊に参加させない
ようにします。また、戦争
せん そう
にまきこまれたこどもを
まも
守るために、できることはすべ
てしなけ
ればなり
ません。



だい じょう
第39条

ひ がい
被害にあった
こどもの回復
かい ふく
と社会復帰
しゃ かい ふつ き

ぎやく たい にん げん てき あつか
虐待、人間的でない扱い、
せん そう ひ がい
戦争などの被害にあった
こどもは、こころ けず
心やからだの傷
をなおし、しゃ かい
社会にもどれる
ように支援
し えん
を受け
う
ることができま
す。



だい じょう
第40条

かん し ほう
こどもに関する司法

つみ おか
罪を犯したとされたこどもは、ほかの人
じん けん たい せつ まな しゃ かい
の人権の大切さを学び、社会にもどった
とき じ ぶん じ しん やく わり は
自分自身の役割をしっかりと果たせる
ようになることを考えて、扱われる権利をもっています。



けん り じょうやく じ どう けん り かん じょうやく ぜんぶん
※こどもの権利条約(児童の権利に関する条約)の全文は、
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/zenbun.html>で読むことができます。

ひとりで悩まないで 相談してみよう



でんわ そうだん
電話で相談



人権イメージ
キャラクター

人KENまる君・人KENあゆみちゃん

こどもの人権 110 番

ぜろ ぜろ なの ひやくとおばん

0120-007-110

<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html>

24 時間子供 SOS ダイヤル (文部科学省所管)

0120-0-78310

<https://www.mext.go.jp/ijime/detail/dial.htm>



メールで相談

こどもの人権 SOS-eメール

https://www.jinken.go.jp/goriyouannai_ch/

LINE で相談

LINE じんけん相談

@linejinkensoudan

友だち追加は
こちらから▶

https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken03_00034.html

手紙 (ミニレター) で相談

▶ 一年に一回、全国の小中学生
全員に配られます。

こどもの人権 SOSミニレター

相談の内容を書いて郵便ポストに入れてください。

切手はいりません。欲しい人は、こどもの人権 110 番に
電話してください。



企画 法務省人権擁護局／全国人権擁護委員連合会

ホームページ <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>

制作 公益財団法人人権教育啓発推進センター

〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX 芝大門ビル4階

TEL 03-5777-1802 FAX 03-5777-1803

ホームページ <http://www.jinken.or.jp>



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

2025 (令和7) 年9月発行